

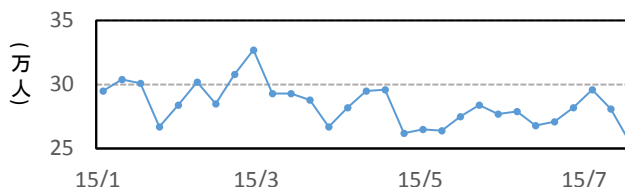
## MARKET REVIEW

### ● 先月の振り返り

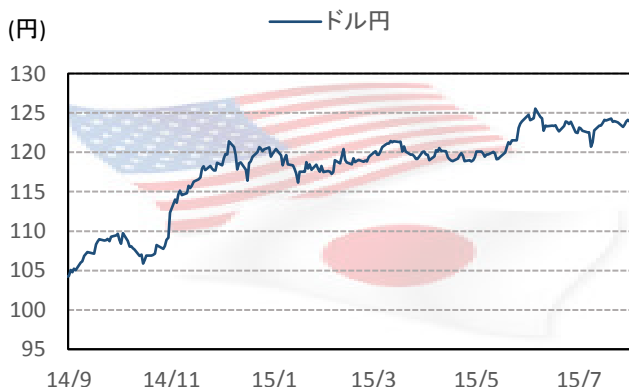
ドル円相場は、中国の株価急落などを背景に7月8日、一時1ドル=120円41銭と約1カ月半ぶりの円高水準となった。ギリシャ情勢も重なり、「安全通貨」とされる円が買われた。だが、そこをドルの絶好の買い場と見て参入した個人投資家がドル買いを入れ急反発。7月21日には日経平均株価の上昇と相まって124.48円まで上げ幅を拡大した。7月23日の米新規失業保険申請件数が25.5万人と約40年ぶりの低水準となったことから、その後もドル買いが優勢となる場面も見られたが、上昇は124.19円までとなった。そして、7月29日のFOMCでは、利上げすることを示唆しなかったため、その後は上値が重く推移する展開となった。

### ● キーワード解説 「新規失業保険申請件数」

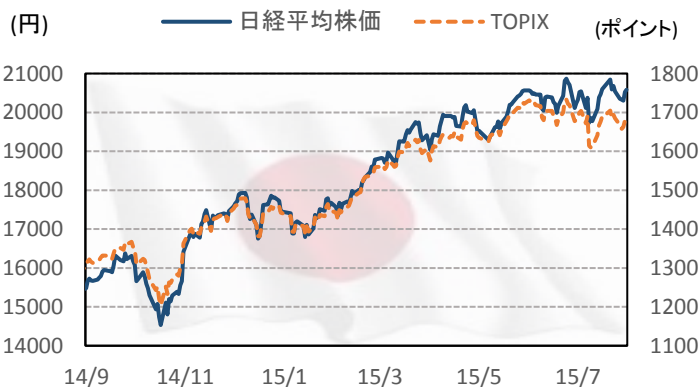
失業者が失業保険給付を初めて申請した件数を集計したもの。景気の動きに敏感に反応する為、景気先行指数にも採用されている。人数が低いと景気が良いと判断できる。毎週木曜日に前週分が発表される。



【先月までのドル円チャート】



【先月までの日経平均株価チャートとTOPIXチャート】



## EXTRA VISION

### ◆ 米利上げはいつになる？

7月29日、FOMC終了後に声明を発表。米経済の穏やかな拡大が続いているとの認識を示したものの、利上げについては、雇用や物価の動向を見極めながら慎重に判断する姿勢を堅持した。イエレン議長は先の議会証言で「FOMCメンバーの大半は年末までに、利上げが適切になると予測している」と述べていたが、年内のFOMCも残すところ9月、10月、12月の3回。今回、金融政策の変更が近いことを示唆しなかったため、9月の利上げの可能性は、一段と低くなったと言っていいだろう。ドル円は、125円のラインを改めてチャレンジしたいところだが、躊躇しているのが現状。ただ、遠のいたと思われる9月利上げが現実になれば、疾きこと風の如く、すべての通貨が動くことは必然だろう。

### ◆ ドットチャート ... FOMCメンバー17名が予想する各年末時点の政策金利予想分布図。四半期ごとに発表。

直近発表のドットチャート(2015年6月のFOMC)では、2015年末までに政策金利引き上げを予想するメンバーが15名、現状維持を予想するメンバーは2名と、前回発表のドットチャート(2015年3月のFOMC)から変わらなかった。予想中央値も0.625%と同じだが、平均値は0.772%から0.566%に低下。2016年末と2017年末は、予想中央値が若干下方シフトした。

